

SHOW HEY シネマルーム

Data

監督：ターセム・シン
出演：ヘンリー・カヴィル / ミッキー・ローク / フリーダ・ピント / スティーヴン・ドーフ / ルーク・エヴァンス / ケラン・ラッツ / イサベル・ルカス / ジョン・ハート

インモータルズ - 神々の戦い -

2011年・アメリカ映画
配給 / 東宝東和・111分

2011 (平成23) 年 12月 10日 鑑賞

TOHOシネマズ梅田

👁️👁️ みどころ

「トロイの木馬」をはじめとするギリシャ神話の世界には、夢とロマンがいっぱい！しかし今、邪悪なイラクリオン国王の侵略の前に、ギリシャの国と民は風前の灯火。そんな人間の戦いに、ゼウスをはじめとするオリンポスの神々はいかに関与？

構想は壮大で映像美もすばらしいが、全知全能であるはずのゼウスがあまり利口でないのが本作の欠点？そんな厳しい評価もあるが、さてあなたは？

* * * * *

構想は壮大、企画も面白いが・・・？

「トロイの木馬」をはじめとするギリシャ神話の世界は、夢とロマンがいっぱいで子供の頃は胸をときめかしたが、大人になり現実的になると・・・。人類誕生のはるか昔、ゼウス率いるオリンポスの神々は邪悪な神、タイタン族との戦いに勝利し、彼らをタルタロス川の地底に幽閉したが、もし彼らがなんらかの力によって復活したら？他方、オリンポスの神々が天空に上った後、地上では人間たちの営みが続けられたが、世界征服の野望を持ったイラクリオン国王ハイペリオン（ミッキー・ローク）の攻撃が今ギリシャの人々の前に迫っていた。それに「対抗」するのは、老ゼウスが「人類の未来を守る救世主」と見込んで、ずっと見守ってきた1人の奴隷の若者テセウス（ヘンリー・カヴィル）だが、さて彼の力は？

オリンポスの神々は決して人間の前に姿を見せてはならない。それが絶対の掟らしいが、テセウスや巫女のパイドラ（フリーダ・ピント）、奴隷のスタブロス（スティーヴン・ドーフ）達がハイペリオンの攻撃の前に窮地に陥ると、海の神ポセイドン（ケラン・ラッツ）

やゼウスの娘アテナ（イサベル・ルーカス）などの神々は？さらに、本作のポイントとなる小道具「エピロスの弓」をテセウスがせっかく発見したにもかかわらず、それがハイペリオンに奪われ、それによってタイタン族が長年の眠りから目覚めると・・・。

『落下の王国』（06年）ですばらしい映像美を見せてくれたターセム・シン監督（『シネマルーム21』370頁参照）は、このようにギリシャ神話を題材として壮大な構想で面白い企画を実現したが、さてその出来は？

3人の評論家で合計星4つは、ちょっと・・・

ギリシャ神話をあまり知らない日本人でも、「ゼウスの神」は全知全能の神だと知っている。本作ではそのゼウスが老ゼウス（ジョン・ハート）として登場したり、驚の姿となって人間たちを見守ったりする他、逞しい肉体を持ったオリンポスの神々のリーダーとしてその姿を見せるところがミソ。ところが彼は、他の神々には厳しく「人間と接触してはダメ」という掟を説きながら自分自身はちゃっかりテセウスを応援したり、自ら武器を取って直接タイタン族を血祭りにあげているから、そこらあたりは少しヘン？

私はキネマ旬報を毎月読んでいて、2011年12月上旬号の「REVIEW鑑賞ガイド」では、川口敦子、粉川哲夫、三浦哲哉の各評論家の本作に対する採点は、それぞれ星1つ、2つ、1つ合計4点という低得点。中でも「ゼウスがバカすぎて・・・」という三浦哲哉氏の評論は、かなり納得できるだけに少しつらい。本作の見どころの1つは「ART」であり、もう1つは石岡瑛子氏がデザインした衣装。ふつう神様は自ら剣をとって戦ったりしないものだが、本作では黄金の鎧甲に身を包んだ5人のオリンポスの神々がタイタン族との戦いでみせるアクションに注目！もっとも、その賛否の意見の代表が三浦氏の評論のとおりでは、少しかわいそう？

地上の戦いに神々はいかに関与？その根本が・・・

本作では『レスラー』（08年）でアカデミー主演男優賞にノミネートされながら惜しくも『ミルク』（08年）のショーン・ペンに敗れたミッキー・ロークが、イラクリオン国王役で圧倒的な存在感を示している。他方、奴隷の境遇から身を起ししながら密かにゼウスの後押しを受け、未来を見る力を持つ聖なる巫女パイドラや盗賊のスタブロスらと共にイラクリオン王国に対抗しギリシャの民を助けようとするテセウスのひ弱さが目立つ。と言うより、イラクリオン王国は圧倒的な武力を誇っているのだから、この野蛮な王国に攻め込まれながらも「話し合いをすればきっとわかるはず」などとリーダーが暢気なことを語っているギリシャ国が、所詮イラクリオン王国に敗れるのは歴史の必然？また、いくら強い意思を持っていても、一介の奴隷の身ではギリシャ軍全体を指揮することなどとても・・・。さらにテセウスはタイタン族解放のカギを握る「エピロスの弓」を発見しながら、むざむざとこれをイラクリオン国王に奪われてしまったのだから、そのイラクリ

オン王国にタイタン族が味方につけばまさに「鬼に金棒」で、ギリシャ軍はお手上げ。

てなわけで、当然予想される方向に向かって現実には動き始めるのだが、さあそこでゼウスをはじめとするオリンポスの神々は人間の戦いにいかに関与？本作のキャッチコピーは「世界を創ったのは神。滅ぼすのも神」だが、それってホントはゼウスの信念に反するのでは？私思うに、そこらあたりの根本がイマイチ不明なところが本作の脚本の欠点。となると、前述した諸氏の低い採点も仕方なし？

2011（平成23）年12月17日記